

a90399

## 反応性低血糖を疑っていたインスリノーマの1例

<sup>1</sup>埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科

大竹 啓之<sup>1</sup>,的場 玲恵<sup>1</sup>,坂下 杏奈<sup>1</sup>,山崎 悠理子<sup>1</sup>,梅原 敏弘<sup>1</sup>,阿部 義美<sup>1</sup>,森田 智子<sup>1</sup>,秋山 義隆<sup>1</sup>,皆川 真哉<sup>1</sup>,大村 栄治<sup>1</sup>,松田 昌文<sup>1</sup>

### 選定用抄録本文

50歳代女性。X-4年より膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)として経過観察中であった。X年Y月夕方飲酒後に意識悪化し救急搬送された。来院時PG 27 mg/dl認め低血糖精査加療目的で緊急入院した。点滴中止後低血糖発作認めず、75 g OGTTで前PG81 mg/dl・IRI3 μU/mL、30分PG66 mg/dl・IRI 280 μU/mL、60分PG97 mg/dl・IRI 80 μU/mLと糖負荷後のインスリン過剰分泌を認めた。空腹時低血糖認めず経過から反応性低血糖と考え食事指導後に外来経過観察とした。IPMN経過観察中囊胞成分を含んだ膵神経内分泌腫瘍(pNET)を疑い、EUS-FNAでpNETの所見を認めた。X+2年Y-8月腹腔鏡下膵体尾部切除施行し病理組織診はpNET G2インスリノーマであった。術後低血糖は改善した。本症例よりインスリノーマは多様なインスリン動態があることが示唆され、想定外のインスリン分泌動態を示す低血糖の症例は注意深い鑑別が必要である。